

科目		動物臨床検査学実習Ⅱ		
担当講師 横山 敏治 実務経験有 獣医師 大学卒業後動物病院に10年間勤務し動物医療に従事				
開講年次		授業形態	選択/必修	授業時間
動物看護学科 2年次前後期		実習	必修	60
授業目標 検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。				
授業概要 血液検査、尿検査、糞便検査、細胞診、心電図検査、X線検査、超音波検査、神経学的検査、皮膚検査、眼科検査等				
成績評価の方法 評価の基準は実習レポートと筆記試験による。また本科目受験には出席率が3分の2以上であることが必要。試験は80～100点がA評価、70～79がB評価、60～69までをC評価とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし評価はCとなる。				
教 材 動物看護の実践（ファームプレス）、動物看護実習テキスト（インターズー）				
授業計画 毎週水曜日 3限目 13:20～14:50				
回	テーマ	授業内容		
1	検体処理、血液凝固剤の種類と特徴、尿採取法と保存法、採便法と保存法、貯留液処理における採取法と保存法	血液採取法、処理保存法、血液凝固剤、尿採取法、保存法、採便法、保存法、貯留液の採取法、保存法		
2	顕微鏡の操作法および取り扱い 正しい操作とメンテナンス法	顕微鏡の各部位、顕微鏡の倍率、鏡検条件 顕微鏡の使用手順、顕微鏡の管理		
3	血液検査	CBC検査、血液塗抹標本、生化学検査		
4	同上	輸血時のクロスマッチ、住血寄生虫の検査法、簡易キットを用いた免疫学的検査、凝固系検査		
5	同上	飼育動物での実習		
6	同上	飼育動物での実習		
7	尿検査 糞便検査	物理学的性状検査、化学的検査、顕微鏡学的検査 物理学的性状検査、顕微鏡学的検査、簡易キットを用いた免疫学的検査、飼育動物での実習		
8	細胞診、微生物学的検査	意義、手技		
9	血液検査	飼育動物での実習		
10	レントゲン検査	レントゲン検査とは、撮影目的に合った動物のポジショニング、適切な現像と管理		
11	超音波検査	超音波検査とは、超音波装置の取り扱い、CT検査、MRI検査、飼育動物での実習		
12	同上	飼育動物での実習		
13	復習	小テスト		
14	血液検査	飼育動物での実習		
15	心電図検査	原理、取り扱いと操作、ポジショニング		
16	皮膚検査	飼育動物での実習		

17	耳検査	飼育動物での実習
18	血液検査	飼育動物での実習
19	復習	小テスト
20	神経学的検査	飼育動物での実習
21	尿検査、糞便検査	飼育動物での実習
22	血液検査	飼育動物での実習
23	血液検査	飼育動物での実習
24	眼科検査	飼育動物での実習
25	血液検査	飼育動物での実習
26	尿検査、糞便検査	飼育動物での実習
27	復習	小テスト
28	血液検査	飼育動物での実習